

平成 27 年度 社会福祉法人川俣町社会福祉協議会事業報告書

1.地域を支える人づくり

(1)福祉意識の醸成

親子ふれあい福祉映画会

(目的) 映画を通じて、楽しみながら親子のふれあいを醸成する。

(実績) 平成 27 年 8 月 8 日 川俣町中央公民館ホールにて開催 参加者 69 名

(評価) これまで学校の冬休みに開催していたが、参加し易くするため、今年度から夏休みの開催に変更することで、親子の交流をこれまで以上に図ることができた。今後は参加者をさらに増やすため周知方法を工夫必要がある。

各種ボランティア講座の開催（ジュニア、傾聴、災害 等）

①入門講座

(目的) 普段あまりボランティアに触れる機会のない人が気軽に参加できる内容で、かつボランティアについて楽しく学ぶことができる講座を開催する。

(実績) 平成 27 年 6 月 24 日 川俣町老人福祉センターにて開催。

講師：福島レクリエーション協会 事務局長 佐藤喜也 氏 参加者 16 名

(評価) 日頃地域で様々な活動を実践している方々の受講が多かった。

今後は開催方法や広報を再検討し、普段社会福祉協議会との関わりが少ない人たちの参加も促進できるようにしたい。

②ジュニアボランティア講座

(目的) 地域や福祉に関する理解を深めると同時に、人から感謝される経験などを通して、今後のボランティア活動への関心をいっそう高めるため開催する。

(実績) 平成 27 年 7 月 30 日～11 月 3 日（全 4 回）

川俣町老人福祉センター等にて開催 延参加者 54 名

(評価) 全 4 回の活動で、内容によって参加率がかなり上下した。対象である小中学生が興味を持ち、より楽しんで参加できるプログラム企画を再検討したい。

③傾聴ボランティア講座

(目的) 孤独を感じている方々に寄り添い、1 人で抱え込みがちな悩みを吐き出す手助けをしたり、孤独感を和らげたりするためのコツや技術を学ぶ講座を開催する。

(実績) 平成 27 年 10 月 26 日～11 月 16 日（全 3 回）

川俣町老人福祉センター等にて開催。

講師：会津大学短期大学部社会福祉学科講師 木村淳也 氏 延参加者 45 名

（新規傾聴ボランティアグループ立ち上げ 1 件）

(評価) 平成 25 年から継続して傾聴ボランティアグループが立ち上がっており、今回で 3 件目の立ち上げとなった。イベント時の慰問以外でボランティアが入ることは少ないため、施設利用者や職員からは歓迎を受けている。

④災害ボランティア講座

(目的) 災害対応を住民自らが主体的に捉え、災害時要援護者の救護や地域での一時避難所運営など、災害時に起こりうる様々な状況を想定し、どのように行動するべきかを東日本大震災の事例を基に検討するため。

(実績) 平成 28 年 2 月 19 日 川俣町老人福祉センターにて開催。

講師：うつくしまふくしま未来支援センター 客員准教授（地域復興支援担当）

天野和彦 氏 参加者 20 名

(評価)「地域内での支え合い」関連をテーマにした災害ボランティア講座は 3 年目となる。以前、講座に参加した方々の要望で地区公民館や婦人会で同じ内容による講座を開催したこともあり、地域での災害対応の在り方に対する関心の高さを実感した。

学校への講師派遣

(目的) 児童・生徒の福祉意識向上のため。

(実績) 高齢者疑似体験指導

平成 27 年 9 月 16 日 川俣南小学校へ職員 1 名派遣

平成 28 年 2 月 18 日 富田小学校へ職員 1 名派遣

ボランティアの心構えに関する講話

平成 27 年 11 月 17 日 福田小学校へ職員 1 名派遣

(評価) 児童・生徒に対する福祉意識の向上が図られた。また、担当教諭と情報交換を行うことで、学校との連携を深めることができた。今後も依頼があった場合は積極的に職員を派遣し、福祉教育を推進していく。

障がい者理解の啓発

(目的) 町内授産所の円滑な運営のため、各種助成金等の情報を案内する。

(実績) 赤い羽根共同募金等の助成事業の案内を行った。

(評価) 車両整備等に活用され、障がい者理解の啓発に寄与することができた。

(2) ボランティア活動の活性化

ボランティアセンターの運営・強化 ボランティア団体への協力・支援

(目的) 住民同士の支え合い意識の醸成・強化を図るため。

(実績) ボランティアセンターの運営

登録ボランティア 団体：19 団体 個人：16 名

ボランティア団体への協力・支援

ボランティア交流会の開催

平成 28 年 3 月 10 日 川俣町老人福祉センターにて開催 参加者 30 名

ボランティア活動保険の窓口対応

加入件数 10 件

(評価) 個々のボランティア意識向上だけでなく、団体同士の横の繋がりができたことにより、新たな活動への展開も見られた。

2. 誰もがつながりあう仕組みづくり

(1) 地域コミュニティの形成

友愛訪問活動助成金交付事業

(目的) 寝たきりや一人暮らしの方々に対する慰問の目的で行う友愛訪問活動の継続した活動に寄与するため。

(実績) 老人クラブに対して 150,000 円を助成。

(評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。

川俣町民生委員協議会への助成金交付事業

(目的) 川俣町民生委員協議会の育成強化。

(実績) 50,000 円を助成。

(評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。

川俣町老人クラブ連合会への助成金交付事業

(目的) 川俣町老人クラブ連合会の育成強化。

(実績) 30,000 円を助成。

(評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。

川俣町赤十字奉仕団への助成金交付事業

(目的) 川俣町赤十字奉仕団の育成強化。

(実績) 50,000 円を助成。

(評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。

<p>川俣町身体障がい者福祉会への助成金交付事業 (目的) 川俣町身体障がい者福祉会の育成強化。 (実績) 40,000 円を助成。 (評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。</p>
<p>川俣町遺族会への助成金交付事業 (目的) 川俣町遺族会の育成強化。 (実績) 20,000 円を助成。 (評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。</p>
<p>川俣町手をつなぐ親の会への助成金交付事業 (目的) 川俣町手をつなぐ親の会の育成強化。 (実績) 10,000 円を助成。 (評価) 助成金を交付し、活動に寄与することができた。</p>
<p>川俣町民生委員協議会の運営 (目的) 民生委員活動を円滑に実施するため。 (実績) 民生委員 52 名、主任児童委員 3 名に対する事務局としての運営を行った。定例会を年 8 回、支部長会議を年 2 回実施。その他事業を実施した。 (評価) 民生委員活動を円滑に行うことができた。</p>
<p>児童虐待の早期発見と防止 (目的) 児童が安心した生活を送るため、虐待の早期発見と防止を図る。 (実績) 民生委員、主任児童委員、ふれあい相談員を通じ、担当区域の確認に努めた。 (評価) 平成 27 年度は虐待ケースの発見はなかった。民生委員協議会の事業である学校との情報交換会等を通じ、継続して実施していく。</p>

(2)交流の場や機会の充実

<p>ひとり暮らし高齢者のつどい (目的) 70 歳以上のひとり暮らし高齢者に健康で豊かな老後を送っていただくため。 (実績) 平成 27 年 7 月 6 日 磐梯熱海温泉 萩姫の湯栄楽館にて開催 参加者 67 名 川俣町、川俣ロータリークラブ、川俣町赤十字奉仕団の後援により、日帰りのバス旅行を実施。スタッフ 12 名 (評価) 多くの高齢者に参加者していただき、交流や親睦を図ることができた。大変好評であるため、今後も継続して開催することで交流の場を提供していきたい。</p>
<p>ひとり暮らし高齢者の健康料理教室 (目的) 65 歳から 79 歳までのひとり暮らし高齢者に健康な食生活を送っていただく。 (実績) 平成 27 年 10 月 16 日 川俣町保健センターにて開催 参加者 4 名 (評価) 参加者が少ないため事業を見直し、今年度でこの事業を終了する。</p>
<p>ふれあいいいききサロンの普及・支援 (目的) 川俣町内のサロン活動を支援することで、高齢者の孤立防止や介護予防、生きがいづくりを行う。 (実績) サロン助成金 298,000 円、サロン交流会 参加者 31 名 平成 28 年 3 月末現在、サロン 28 ヶ所、サロン参加者数 451 名 サロン訪問によるレクリエーション実施、実施状況確認等 (28 ヶ所) (評価) 実際にサロンを訪問することで、サロンの雰囲気や把握することができ、サロン間の交流調整や避難者がサロンに参加したいとの問い合わせの際に適切な対応ができた。各サロン参加者との信頼関係構築にもつながり、サロンでのレクリエーション実施要請や各種相談なども多く寄せられるようになった。</p>
<p>在宅ねたきり高齢者の介護者リフレッシュ事業 (目的) ねたきり高齢者の介護者に心身ともにリフレッシュしていただく。 (実績) 平成 28 年 1 月 25 日 土湯温泉福うさぎにて開催 参加者 6 名 (評価) 参加者が少ないため事業を見直し、今年度でこの事業を終了する。</p>

(3)防災体制の充実

防災組織との関係づくりの強化

- (目的) 地震、火災、土砂災害などの災害に備え、町民の理解と協力を得ながら行政や自主防災組織等と連携し、見守り体制の充実・強化を図る。
- (実績) 災害ボランティア講座開催時に町内の自主防災組織会員に参加していただいた。
- (評価) 行政とは連携が図れたが、自主防災組織との連携は図れていない。今後、緊急時の見守り体制の充実させるため、いっそうの連携を図る必要がある。

災害ボランティアセンターの立ち上げ（災害ボランティアセンター運営講座）

- (目的) 災害時の対応について、職員一人一人が明確に理解し即応できるよう備えておくために開催。
- (実績) 平成 27 年 4 月 11 日 川俣町老人福祉センターにて開催
講師：にいがた災害ボランティアネットワーク 事務局長 李 仁鉄 氏
社協職員 8 名
- (評価) 前半部が災害時の対応や社協職員としての心構え等の講義、後半部で実際の災害を想定した紙上シミュレーションを行ったが、前半部に時間を割かれ、シミュレーションが十分にできなかった。

避難所体制の整備

- (目的) 災害が発生した際、避難所としてすぐに対応できるよう整備を行う。
- (実績) 県社協を通じて「福島県・市町村社会福祉協議会における災害時相互支援に関する協定書」を締結している。協定書に基づき支援物資リストを作成した。
- (評価) 施設に配備されている備品を確認し、災害時に対応できる支援物資を確認することができた。今後、いつ発生するかわからない災害に備え、さらなる備品整備が必要である。

3.誰もが安心して暮らせる環境づくり

(1)生活環境の整備

福祉タクシー利用者への助成

- (目的) 重度身体障害者の経済的負担の軽減を図る。
- (実績) 身体障害者手帳 1 種 1 級、1 種 2 級の方々を対象に、500 円のタクシー券を一人 6 枚交付した。
申請者 36 名 (216 枚)、申請率 12%、利用 73,960 円分 (148 枚)
- (評価) 利用者の経済的負担を軽減し、移送手段の確保をすることができた。申請率が 12% と低いので、多くの方に利用してもらえよう広報誌やホームページなどを通じて広く周知していく必要がある。

町内遊び場遊具の点検・整備

- (目的) 子どもたちが安全に遊ぶことができる環境保全のため。
- (実績) 小神こども遊び場のブランコ塗装と鉄棒塗装を行った。(30,000 円)
- (評価) 子どもたちが安全に遊ぶことができる環境保全ができた。今後も町内の遊び場を点検し、環境保全に努めていく。

(2)健康づくりの推進

ふれあい健康保持事業

- (目的) 高齢者が元気に生活していくための健康保持に寄与する。
- (実績) 単位老人クラブが 10 名以上で開催する温泉事業に対し、65 歳以上の参加者、一人年 1 回 1,000 円を助成した。
申請者 549 名、助成金額 549,000 円
- (評価) 多くの高齢者に利用していただくことで、健康保持を図ることができた。大変好評であるため継続して事業を実施していきたい。

グラウンドゴルフ大会等への支援

- (目的) 高齢者活動の活性化を図るため、老人クラブ連合会が主催する各種事業を支援する。
- (実績) グラウンドゴルフ大会開催時に飲み物を社協から提供していたが、老人クラブ事務局と協議して廃止した。また、平成 27 年 11 月 6 日に川俣町体育館で開催された「第 35 回いきいきスポーツ大会」においては職員 3 名が大会運営に協力した。
- (評価) 今後も老人クラブと連携しながら、高齢者活動の活性化を図る。

(3)福島第一原発事故からの復興

避難者の見守りや生活相談の実施

- (目的) 原発事故により避難されている方々の生活状況改善のために訪問、見守り、生活相談等を実施する。
- (実績) 生活支援相談員 3 名により避難者の訪問、見守り、生活相談等を行った。
山木屋地区避難者宅への訪問 延 4,145 件
浪江町住民の避難者宅への訪問 延 46 件
南相馬市住民の避難者宅への訪問 延 2 件
- (評価) 避難者の生活状況の改善を図ることができた。今後も避難者に寄り添いながら見守り支援、訪問活動を継続する。

仮設住宅でのサロン開催

- (目的) 入居者の閉じこもり防止、孤立死等のリスク解消並びに住民相互の新しいコミュニティ作りのため。
- (実績) 仮設サロン 23 回 (参加者延 393 名)、借上サロン 12 回 (参加者延 158 名)
- (評価) 閉じこもりを防ぎ、新しいコミュニティ作りに寄与することができた。今後の生活を考えるようになってきている人が増えているため、サロンを継続して支援を実施する。

山木屋地区住民の交流会開催

- (目的) 日頃仮設住宅と借り上げ住宅に分かれて生活している山木屋地区住民が一堂に会し、交流する機会を設けるためクリスマス会を開催する。
- (実績) 平成 27 年 12 月 24 日 福沢多目的集会所にて開催 参加者 80 名
- (評価) 今回で 4 回目となるが、交流会よりも食事会がメインになってしまっている (食事を終わるとすぐに帰ってしまう)。共催の山木屋自治会とも打ち合わせのうえ、今後の方向性を見直していきたい。

町外からの避難者に対する支援

- (目的) 地区住民相互の新しいコミュニティ作りをするため。
- (実績) 浪江町住民向けのサロン 5 回 (参加者延 55 名)
- (評価) 地域住民相互のコミュニティ作りに協力することができた。参加者の固定化が見られるものの、新しい生活に意欲的になれるようサロンを継続する。

(4)社会参加・生きがいづくりの支援

生きがいデイサービスの運営

- (目的) 介護認定非該当の高齢者に対し、他の利用者とのふれあいや孤立感の解消のため実施する。また、利用者を「いきいき荘」まで送迎する外出支援サービスを実施する。
- (実績) 支援員 1 名、支援補助員 1 名で、毎週火・水・木曜日に実施。
年間延 795 名の利用。
- (評価) 本事業を通じて利用者同士が交流し、いきいきと活動していただくことができた。今後も利用者が楽しみを持ち、生きがいを感じられるよう行事等を計画していく。

自立支援ホームヘルパー派遣

- (目的) 介護保険非該当の利用者が居宅において自立しながら日常生活を営むことができるよう、ホームヘルプサービスを提供する。
- (実績) ヘルパー10名が利用者17名に対し899時間のサービスを提供。
- (評価) 自立支援者の健康観察と利用者へのサービスを提供することができた。

老人福祉センターの運営

- (目的) 高齢者の健康増進や教養の向上、またレクリエーションなどの機会を総合的に提供する会場として、老人福祉センター「いきいき荘」の入浴施設と部屋の開放。
- (実績) 利用者 延141団体7,596名、利用料合計金額534,150円
(月曜は休館、金曜は入浴)
- (評価) 多くの高齢者や福祉関係団体の方々に利用いただいた。今後、施設の老朽化に伴い施設の改修工事を進めていく。

福祉バスの運行

- (目的) 社会福祉活動の増進と活動の際の交通の便を図る。
- (実績) 運行回数85回、延利用者1,698名
- (評価) 福祉バスの入れ替え以降、利用団体が増えている。今後も社会福祉活動増進のために運行していく。

(5)生活困窮者の支援体制の充実

生活援助資金貸付事業

- (目的) 低所得世帯の一時的な資金不足解消する。
- (実績) 50,000円上限の小口の援助資金貸付を実施。
申請8件、貸付金額390,000円、返済未済額593,000円(内、過年度分348,000円)
- (評価) 資金貸付により、低所得世帯の生活を支援し、自立更正を図ることができた。今後も低所得者の自立支援のため貸付を行う。

生活福祉資金貸付事業

- (目的) 低所得世帯などに対し、自立のために必要な費用(資格取得のための費用)や生活費を貸付する。
- (実績) 申請2件、貸付決定1件30,000円(緊急小口資金) 返済未済額0円
- (評価) 貸付金の使用目的により総合支援資金・緊急小口資金・教育支援資金など、様々な資金種類に分かれている。
生活困窮者自立支援事業との連携を図り、支援を必要とする世帯への適切な貸付に努める必要がある。

高額療養費貸付事業

- (目的) 高額入院費を支払うことが困難な方に対し、その費用を貸付する。
- (実績) 申請1件、貸付金額197,000円 返済未済額0円
- (評価) 資金貸付により、病院に対して入院費を支払うことができた。

出産資金貸付事業

- (目的) 出産育児一時金の支給を受けるまでの間、出産に要する費用を支払うための資金を貸付する。
- (実績) 申請0件
- (評価) 現在では健康保険から病院へ直接支払われる、直接支払制度の場合がほとんどであるため、貸付実績がない状況が続いている。

生活困窮者支援制度に関する対応

- (目的) 生活困窮者の支援の目的で、県社協が受託している自立相談支援事業に協力する。
- (実績) 県社協主催による支援調整会議 年3回実施(延16名に対する支援方法を検討)
- (評価) 対象者が仕事を見つけ、生活困窮から脱却することができた。自立した生活を送る方が増えるよう今後も協力していく。

4.地域福祉を推進する連携の体制づくり

(1)相談体制の充実

心配ごと相談所の開設

- (目的) 問題を抱えている方が少しでもその問題を改善することができるよう支援する。
- (実績) 毎週水曜日の9時から11時に開催。相談員1名、相談件数8件。
- (評価) 相談者の悩みを解消することができた。また、電話や開設日以外の相談もあった。今後、相談員体制を増員し、きめ細かな相談援助を実施していく。

弁護士相談会

- (目的) 法律が関係する問題を抱えている方の悩みを解消する。
- (実績) 平成27年11月18日開催。相談件数8件。
- (評価) 弁護士に相談することで、相談者の悩みを解決することができた。

高齢者支援システムづくり事業（ふれあい相談員の配置）

- (目的) 在宅要援護高齢者等のニーズ発見を強化する目的で民生委員を補佐する「ふれあい相談員」を配置する。
- (実績) ふれあい相談員60名を配置し、在宅要援護高齢者等のために活動した。
民生委員とふれあい相談員の合同研修会
平成28年3月18日 おじまふるさと交流館にて開催 参加者90名
- (評価) 地域のニーズを民生委員に繋ぐことができた。町民の生活不安は様々なので、今後も地域の目となっていただくよう活動を支援する。

(2)情報提供の充実

社協だより等の発行

- (目的) 社会福祉協議会の事業内容やお知らせを、町民へ広報するために発行する。
- (実績) 年度内3回発行（27年7月、10月、28年3月）
- (評価) 発行頻度やページ数の関係で最新状況を広報するのが難しく、今後の検討課題である。内容については、社協だよりを見てデイサービスや配食サービスの利用につながったこともあり、広く社協の事業を紹介することができた。

社協ホームページの開設

- (目的) 年代に応じて適切な情報ツールを用い、様々な層の町民が適切に情報を受け取れるよう、情報提供の充実に努める。
- (実績) 平成27年10月よりホームページを開設し、決算情報や社協の各事業の取り組みについて、広くお知らせをしている。
アクセス件数 1,215件（平成28年3月末日）
- (評価) 幅広い年齢層に分かりやすく、見やすいホームページの更新や編成をし、今まで以上に社協の事業について理解を深めてもらうきっかけとなった。

(3)福祉サービスの充実

介護者激励金の支給

- (目的) 介護者の労苦をねぎらうとともに、高齢者福祉を増進する。
- (実績) 対象者197名、支給金額985,000円（一人あたり5,000円）
- (評価) 激励金を支給することで、多くの介護者の日々の労苦をねぎらうことができた。介護は日々継続して行われるため、今後も事業を実施して介護者を激励していきたい。

高齢者配食サービス助成事業

- (目的) 一人暮らし高齢者等に在宅で栄養バランスのとれた食事の機会提供と、その費用負担の軽減を図る。
- (実績) 新川が宅配する600円の弁当を月20食まで200円補助する。登録者14名、助成金額226,000円（1,130食分）となった。
- (評価) 高齢者等の食事の質が向上し、費用負担の軽減を図ることができた。また、弁当を宅配することで、高齢者の見守りにも繋がった。

<p>日常生活自立支援事業（あんしんサポート）</p> <p>（目的）認知症・障がい等により日常生活上の判断に不安がある方に対し、安心した生活を送っていただくため、「福祉サービスの利用援助」「日常的金銭管理サービス」「書類等の預かりサービス」を実施する。</p> <p>（実績）契約者 3 名に対し生活支援員 2 名が年間 33 回の支援を実施した。</p> <p>（評価）契約者の生活を安定させることができた。在宅で安心した生活を送っていただくため、情報提供や支援を充実していく。</p>
<p>訪問介護サービス利用者助成事業</p> <p>（目的）低所得世帯（非課税世帯）が訪問介護サービスを利用した際、費用の一部を助成する。</p> <p>（実績）対象者 2 名、助成総額 52,708 円</p> <p>（評価）対象者は少ないが、非課税世帯にとっては利用料金の 4 分の 1 という助成金額は大きいものであるため、今後も継続していく。</p>
<p>ひとり親家庭への食事券給付</p> <p>（目的）ひとり親家庭が親子一緒に食事をするこゝで、ふれあいの時間を創出する。</p> <p>（実績）中学生以下の子どもがいるひとり親家庭に一人 1,000 円分の食事券を給付。申請件数 32 件（86,000 円分）、申請率 31%、利用者数 29 件（78,000 円分）</p> <p>（評価）利用した親子のふれあう機会の増加に寄与することができた。申請率が 31% と低いので、利用者が増えるよう、周知をしていく必要がある。</p>
<p>ひとり親家庭入学祝金支給</p> <p>（目的）ひとり親家庭の児童が川俣町立小学校に入学した際の援助激励をする。</p> <p>（実績）対象者 8 名（一人あたり 5,000 円）、支給金額 40,000 円。民生委員を通じて支給した。</p> <p>（評価）児童及びその親に対し、援助激励をすることができた。今後も対象者に喜んでいただけるよう事業を継続する。</p>
<p>障がい者へのホームヘルパー派遣</p> <p>（目的）障がいを抱えた利用者が居宅において日常生活を営むことができるよう、必要なホームヘルプサービスを適切に提供する。</p> <p>（実績）ヘルパー 10 名が利用者 10 名に対し、1,180.5 時間のサービスを提供した。</p> <p>（評価）ホームヘルプサービスを適切に提供することができた。今後もヘルパー同士、連携を密にしながゝサービスを提供していく。</p>
<p>居宅介護支援事業所の設置・運営</p> <p>（目的）要介護状態にある高齢者に対し、適切な介護サービスを提供し、可能な限り自宅で自立した生活を送ることができるようにする。</p> <p>（実績）介護支援専門員 2 名で適切な介護サービスを提供した。市町村から委託を受けて要介護認定調査を延 122 件実施した。ケアプラン作成については延 1,009 件行った。</p> <p>（評価）利用者に対し、適切な介護サービスを提供することができた。今後も利用者が安心して在宅生活を送れるようサービスを提供していく。</p>
<p>災害見舞金の交付</p> <p>（目的）災害被害に遭った方々を御見舞する。</p> <p>（実績）交付金額 65,000 円（住宅火災 2 件 20,000 円、住宅火災による死亡 1 件 30,000 円、床上浸水 3 件 15,000 円）</p> <p>（評価）災害被害に遭われた方を御見舞することができた。今後も被災された方に寄り添うため、事業を実施していく。</p>
<p>すみよし保育園の受託運営</p> <p>※別紙、管理運営状況報告書のとおり</p>

(4)地域福祉ネットワークの構築

地域ネットワークづくり

多様化した地域の福祉課題に柔軟に対応し、効果的な地域福祉活動を推進するため、地域で活動する組織・団体間の橋渡し等を行い、地域内での団体間のネットワークづくりを行ってきた。

特に住民組織である老人クラブ連合会、民生委員協議会とは年間を通して情報交換を行い、本会との連携を構築してきた。

老人クラブ連合会、民生委員協議会以外にも各地域に団体があるので、連携を深めながら地域ネットワークを構築する必要がある。

福祉ニーズや課題の把握（町民との座談会の開催）

（目的）「住民同士の支え合い」の大切さに気付くためのきっかけづくりとして、地域の課題に対して自分たちが主体となることができることは何か考え、意見交換を行うため開催。

（実績）平成 27 年 11 月 26 日 大綱木公民館にて開催 参加者 9 名

（評価）初めての試みで参加者が何を話したらいいのか戸惑っていたが、後日、実施結果報告書をまとめて参加者へ提出したことについては、話題が整理されて地域課題が明確になったとの評価を受けた。

5.地域福祉を推進するための機能強化

(1)組織の強化

組織体制の強化

公共性と民間性を併せ持った地域福祉を推進する民間団体として、地域に開かれた組織体制を構築するため活動してきた。

資金面では、町や県社協等からの補助金により、安定的に事業を実施していくことができた。

各種事業については、内容の検討や見直しを行い、参加者や利用者に質の高いサービスを提供することができた。

合わせて、お預かりした寄附金を基金に積み立てし、社協の組織基盤を継続することができた。

今後も効率的な地域福祉活動を推進していくため、組織体制を強化していきたい。

職員の資質の向上

複雑・多様化する福祉ニーズに対応するため、職員一人一人が仕事に責任を持ち町民に信頼される職員となるよう、県社協主催等の各種研修会に積極的に参加し、資質を向上することができた。

今後とも町民の方々から信頼される職員となるよう、自己研鑽に努めていきたい。

(2)財政の強化

社協会員加入の促進

（目的）一般会員会費と特別会員会費により財政強化を図る。

（実績）一般会員会費は川俣町行政長官、行政連絡員に依頼し、4,775 世帯から一口 800 円を集めていただいた。納入金額は 3,284,000 円（4,105 世帯）、納入率は 86%となった。

特別会員会費は社協の理事、監事、評議員、民生委員 14 名に依頼し、企業等 175 事業所から一口 5,000 円を集めていただいた。納入金額は 1,225,000 円（171 件 245 口）

（評価）避難区域のため、山木屋地区の募集は中止したものの、財政の継続を図ることができた。今後も会費を納入していただけるよう社協事業を周知していく。

共同募金活動の実施

(目的) 川俣町を含む全国の福祉活動や、歳末たすけあい活動の財源となる共同募金の募集活動を行う。

(実績) 共同募金 1,943,279 円

内訳：戸別募金 4,111 世帯 1,644,400 円 (各世帯から 400 円)

街頭募金 3 件 67,122 円

学校募金 9 校 69,614 円

職域募金 1 件 72,239 円

個人募金 3 名 1,900 円

その他募金 24 件 88,004 円

歳末たすけあい募金 1,154,379 円

内訳：戸別募金 4,111 世帯 822,200 円 (各世帯から 200 円)

個人募金 3 名 27,466 円

その他募金 9 件 304,713 円

(評価) 街頭募金の実施と窓口募金により募金実績の増加に努めている。募金の趣旨や用途を理解していただき協力してもらえよう、広報などに取り組んでいく必要がある。

その他

百歳賀寿祝金贈呈事業

(目的) 100 歳となった方への賀寿祝を目的とし、祝金を贈呈する。

(実績) 対象者 3 名、贈呈金額 30,000 円 (一人あたり 10,000 円)

(評価) 川俣町の高齢化率は約 37% であり、今後も賀寿を迎える方が増えていくと考えられる。賀寿となった方を御祝するため、今後も継続して実施していく。

福島地区電気工事協同組合川俣支部主催

ひとり暮らし高齢者等住宅照明器具点検事業への協力

(目的) 福島地区電気工事協同組合川俣支部が、要援護者の安心安全を支援する目的で、ひとり暮らし高齢者等の住宅を訪問し、点検や交換修理を無料で行う。社協は依頼を受け、民生委員を通じた希望者の取りまとめや連絡調整等を行う。

(実績) 平成 28 年 10 月 27 日開催 14 名の希望者に対し 9 事業者が訪問して点検を実施。

(評価) 要援護者の安心安全を支援することができた。今後も協力依頼があった場合、協力していく。